具体的な対応方針(西部構想区域)

○西部構想区域の現状

		現状		プランを反映					
	必 要 病床数	病床機能 報告 2017	差	必 要 病床数	病床機能 報告 2025	差			
高度急性期	439	128	△311	439	208	$\triangle 231$			
急性期	1,450	2,660	1,210	1,450	2,525	1,075			
回復期	1,596	826	$\triangle 770$	1,596	903	$\triangle 693$			
慢性期	1,118	1,726	608	1,118	1,718	600			
休棟中		171	171		83	83			
計	4,603	5,511	908	4,603	5,437	834			

○公立 • 公的病院等

○公立・公的	加州元寺				
病院名	病床機			ラン	プランによる影響
	(201	7(年)	(202	5年)	
	高度	16	高度	16	
坂出市立病 院	急性期	178	急性期	178	・プランによる病床機能の変更なし。
120	計	194	計	194	
綾川町国民	急性期	35	回復期	35	
健康保険	慢性期	28	慢性期	28	・急性期から回復期に 35 床転換する。
陶病院	計	63	計	63	٠ <u>٠</u> ٠ ،
	回復期	50	回復期	50	
三豊市立	慢性期	48	慢性期	40	・慢性期8床、休棟中 42 床を減床す
永康病院	休棟中	42			る。
	計	140	計	90	
→ ## - 	回復期	60	回復期	60	
三豊市立 西香川病院	慢性期	30	慢性期	30	・プランによる病床機能の変更なし。
	計	90	計	90	
	高度	20	高度	20	
三豊総合病	急性期	411	急性期	391	・急性期 20 床を減床する。
院	回復期	47	回復期	47	・ 忌性朔 20 外を概外する。
	計	478	計	458	
T 11 W W 4	高度	16	高度	16	
香川労災病 院	急性期	388	急性期	388	・プランによる病床機能の変更なし。
122	計	404	計	404	

病院名	病床機 (201	能報告 7年)		ラン 5 年)	プランによる影響
	高度	24	高度	24	・休棟中から、4 床減少し、回復期に
総合病院	急性期	281	急性期	281	42 床転換する。
回生病院	休棟中	46	回復期	42	(休棟中からの転換ではなく、急性
	計	351	計	347	期からの転換も視野に検討)
	高度	52	高度	132	
四国こども	急性期	350	急性期	270	
とおとなの 医療センタ	回復期	50	回復期	50	・急性期から高度急性期に 80 床転換する。
_	慢性期	215	慢性期	215	
	計	667	計	667	
冰点纵 A 启	急性期	102	急性期	102	
滝宮総合病	回復期	89	回復期	89	・プランによる病床機能の変更なし。
	計	191	計	191	

○構想の方向性に沿う具体的対応方針

- 綾川町国民健康保険陶病院
- 三豊市立永康病院
- 三豊総合病院
- 総合病院回生病院
- ・四国こどもとおとなの医療センター

(医療機関名:坂出市立病院)

新公立病院改革プラン、公的医療機関等2025プランを踏まえた 今後の医療機関としての役割等について

議論の論点		医療機関の役割等											
	2025 4	2025 年における役割											
	がん	脳卒中	疾血管	糖尿病	疾精患神	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅		
	0	\triangle	0	0		0	0	0	Δ	0	0		
	※プラン	※プラン等に記載された今後の役割について該当する項目に「〇」を御記入ください。											
	1) DF	PC 標準		詳、急	性期一	般入防	純料 1 (の継続					
										数:14	12 件/		
	年、悪									пжн	- I.I.).		
	3) 虚』												
	る窯温 4) 消化		おも含む					_		•			
	4118	. —	1577 · 山	以人有百万	て込い(こ)	(1) A	心压力。		(561)	小以上 1.	元业兄女人		
	5)糖		中心と	こした	内分泌	疾患に	こ対する	る制度	の高い	`医療(の提供		
①2025 年を	(現在	三約 15	00 人以	人上の	DM 患	者の診	診療を 🏻	してい	る)				
見据えた構	6) 透	析医療	の拡充	三(現場	犬:13	83 件/4	年)						
想区域にお	7) 小	3) 透析医療の拡充(現状:1383 件/年) 7) 小児医療の継続(小児専用病床 10 床)(指定小児慢性特定疾病医 療機関)											
いて担うべ き医療機関	療機関												
としての役	8) 災生									,			
割	9) 救急		, ,		-				-				
H 1	件/年、	-	助帝心 曽加傾I								牛、 至		
	10) ^								C 90	70)			
	- /			> 1			*		摩所	②医旬	i派遣·		
			所 ③								· // (\(\begin{align*}		
			,,					,		(269	件) 在		
	宅看取	なり (4	8件)	の継続	汽 実施								
	12) 研	子修医(の受け	入れ:	4 年間	で 9→	10→1	4→13	人/年	(全て	香川大		
	学臨床	研修图	医) の	受け入	れ、研	修実績	責から	今後も	継続子	定			
	13) 휭												
	14) 第									30 年月)		
	15) 市	7立病[完故に	币民の	期待す	る医療	僚を提信	共する					
	1												

(床) 高度急 急性期 回復期 計 慢性期 休床 現在 8 178 8 194 2025年 16 178 194

(考え方)

- 1) H26 年新築移転時に高度急性期病床を 16 床新設し、急性期病床 を 38 床減床し、全体で計 22 床削減した。更なる急性期病床の削減 は考えていない。
- ②2025 年に 持つべき医 療機能ごと の病床数
- 2) 2025 年までには 178 床の急性期病床のうち 4 床を第二種感染症 指定病床に移行予定であり、本来の急性期病床は 174 床に想定して いる。
- 3) 現状で病床利用率は新築後 4 年間で $62 \rightarrow 72 \rightarrow 73 \rightarrow 77\%$ と上昇し、逆に平均在院日数は $13.9 \rightarrow 13.4 \rightarrow 12.0 \rightarrow 11.9$ 日と顕著に短縮しており、現在の高度急性期・急性期病床数を維持しなければ当院が担う急性期医療の提供が困難になると考えている。
- 4) 小児科常勤医師は現在 3 人で、土日祝日とも on call 体制で時間外受診に対応しており、時間外緊急入院も受け入れている為、小児科病床の確保は必要と考えている。
- 5) 近隣住民の要望が根強い脳神経外科の常勤医確保と産科の再開 (産婦人科医の増員) は香川大学に継続的に要請・努力している。 2025年までに実現すれば相応の病床数の確保が必要であると考えて いる。

(今後の方向性)

③非稼働病 棟について、 今後の方向 性、構想との 整合性の確 保(※) ・病棟単位ではないが、看護師不足により高度急性期病床のうち ICU4 床、HCU4 床を現在休床としているが、今後稼動していく方針である。

(地域医療構想との整合性の確保)

- ・当院が休床にしている 8 床は、不足している高度急性期病床である為、稼動が望ましいと考えている。
- (※) ③の記載対象・・・病棟が全て稼動していない病棟を有する医療機関が記入対象。 (平成29年度病床機能報告において報告した平成29年7月1日時点の医療機能を「5 休棟中、休棟後の再開の予定なし、休棟・廃止予定」と報告した医療機関等)

議論の論点		医療機関の役割等										
	2025 年	にお	ける役	割								
	がん	脳卒中	疾血管	糖尿病	疾精患神	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	
								\bigcirc			\bigcirc	
①2025 年を	※プラン等	等に記載	載された	今後の役	き割につい	ハて該当	する項目	に「○」	を御記	入くださ	۱۷۰°	
見据えた構	• 高齢化	・高齢化が益々進展する中で、在宅医療等、住民の求める医療を適切										
想区域にお	に提供し	してい	へく体制	制を検	討する	5ととも	ちに、	住民の	健康を	守る	立場か	
いて担うべ	ら、予防	ら、予防医療への役割を積極的に果たしていかなければならない。 具										
き医療機関	体的には	な的には、医師、医療スタッフを充足させ、現在の11診療科目を維 ましながら、在宅医療の要となる訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ										
としての役割		-										
古 」	テーショ											
	の移行を	,	• •	–	_ ,			•				
	, , .	「従来から実施している、医師やリハビリテーションスタッフ等に ・スな動健康数字において、予防医療を由ふりした知識を提供し、健										
	_ ,,	にる移動健康教室において、予防医療を中心とした知識を提供し、健 展で会心して真らせる町づくれて貢献していく										
	尿で女生	表で安心して暮らせる町づくりに貢献していく。 (床)										
		-	高度急	急性	期	回復期	慢性	÷期	休床	計		
	現在		74,272.	76,13	35		12.12	28	11 %1-	F 1	63	
	2025 年	Ę.				35		28			63	
	(考え)	方)								1		
(1) 2005 #17	・香川県	県地域	或医療棒	構想で	は、平	区成 37	年(2	025 年	三) にま	3ける	医療需	
②2025 年に 持つべき医	要及び必	公要 症	病床数 等	等が構	想区域	なごとに	2推計	されて	いる。	この中	で、当	
療機能ごと	院が属っ	する世	5部構想	想区域	につい	いては、	急性期	明病床 [、]	や慢性	期病床	きから、	
の病床数	高齢者の	の増力	旧に伴っ	って需	要増加	「見込 」	まれて	いる回	復期症	原床へ	転換し	
V2/19/10/19X	た上で、	全体	的な病	床数を	を削減	する必	要性が	が示され	ってい	る。当日	院にお	
	いても、	地域	で実情	青を考!	恵しな	がら、	病床数	の削液	載も含む	め、回	復期病	
	床への	幾能車	云換に~	ついて	検討し	ていく	必要	がある	。また	、当院の	の地域	
		連携室を充実させ、病病・病診連携を密にし、介護施設や訪問看護ス										
	テーショ						当院	への受	入れや	退院	支援が	
	円滑に行	うわれ	いるよう	うにし	ていく	0						

(今後の方向性)
・該当なし
③非稼働病
棟について、
今後の方向
性、構想との
整合性の確保)
・ を合性の確保
・ (※)

(医療機関名:三豊市立永康病院)

新公立病院改革プラン、公的医療機関等2025プランを踏まえた 今後の医療機関としての役割等について

議論の論点		医療機関の役割等									
	2025 年にお	ける役割									
	が解や中	疾 心	糖尿病	疾 精	救急	災害	へ き 地	周産期	小 児	在宅	
	0 0		0	0	0	0	0		0	0	
①2025 年を 見据えた構想 区域において 担うべき医療 機関としての 役割	※・い骨と述医リ割機ま患時ととでるよな患関リえに少へであよな患関リえに少へであるよなと関リえにかってある。	「習を表への性、 数精応のは、 数精応の性 が 科継が が 科継が が 科継が が 科継が が 科継が が 科継が かが かん	地有到療芯が折 急あし方のるら必当了機 期公い性	高住の要院しの に立。で齢民骨とでフ間 対病 考に	図を含めずコリーンでで、はく多重応ーハーつあいい高。急能ッリー回、 が	。齢医性なプ・ 復当、高ゆ師期軽入経 期院 も	E、足の等が観 慢対 幸 ポニ病に足の等が観 性応 いないない ないしょう かいしょう はんしょう はんしょ はんしょう はんしょ はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょ はんしょ はんしょう はんしょう はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ	病り院は性な院が能 こ病うの困期患等 中な と高が 心疾 に脂肺模でのの当 と患 医	血炎、あ救転地 なを 師症、設る急院で る有 が	肥路か従応け当た員に満感らっ、入院精でいい。	
			T	1					1	(床)	
		高度急	急性	生期	回復期	慢性		休床	計		
②2025 年に	現在				50		48	42		140	
持つべき医療	2025年	★精神病棟	i (手目 ·	. 50 2	$\frac{50}{025:3}$		40			90	
機能ごとの病		公 不再不平为约 4 沐	(5亿)	. 59 4	020.5	0)					
床数	・回復期、現在より若したい。大き	(考え方) ・回復期、慢性期が中心の病床構成となる。病床稼働状況や人口減少を想定し現在より若干減床すべきと考える。もし医師増員できれば現状維持または増床したい。大きな増員がない限り急性期に重きを置くことは不可能である。そういう点では県・国の方向性に合致していると考える。									
	(今後の方)										
③非稼働病棟 について、今 後の方向性、 構想との整合	続する。稼りなくなった 病床保持は (地域医療	・医師増員となり受入れ患者数の増加が可能とならない限り非稼働の状態を継続する。稼働病床に対する交付金の制度が施行されるのならば、もし病床が足りなくなった時の為に病床は保持していたい。しかし稼働の目処が無く長期に病床保持はならぬとのことなら正式に削減するしかない。 (地域医療構想との整合性の確保)									
性の確保(※)	可能であり、ところ不可能ない。構造	・医師増員となれば非稼働病棟を回復期・慢性期病棟として再稼働することは可能であり、それらの病床数を増やすという構想には沿えるが現実的には今のところ不可能である。然るべき時に再稼働の目処が無ければ削減命令に従うしかない。構想の方向性には合わせていく。									

(※) ③の記載対象・・・病棟が全て稼動していない病棟を有する医療機関が記入対象。

(平成29年度病床機能報告において報告した平成29年7月1日時点の医療機能を「5 休棟中、休棟後の再開の予定なし、休棟・廃止予定」と報告した医療機関等)

議論の論点		医療機関の役割等										
F424 FIIN FIIN FIIN FIIN	2025 4	<u></u> 年にお	ける役	害[74124						
	がん	脳卒中	疾血管	糖尿病	疾精患神	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	
①2025 年を 見据えた構 想区域にお いて担う と と して を と して の 役 割	担後期の担りの期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の期の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の別の<l< td=""><td colspan="11"> </td></l<>											
②2025 年に 持つべき医 療機能ごと の病床数	(考え ・回復	高度急 急性期 回復期 慢性期 休床 計										
③非稼働病 棟について、 今後の方向 性、構想との 整合性の確 保(※)	非核	(今後の方向性) ・非稼働病床はありません。 (地域医療構想との整合性の確保) ・										

(医療機関名:三豊総合病院)

新公立病院改革プラン、公的医療機関等2025プランを踏まえた 今後の医療機関としての役割等について

議論の論点	ノ <u> △</u> /泉/阪	1124				幾関の征	少割等					
	2025	年にお	ける役	:割								
	がん	脳卒中	疾血管	糖尿病	疾精患神	救急	災害	へ き 地	周産期	小児	在宅	
①2025 年を		0	0	0		0	0	\circ		0	0	
見据えた構 想区域にお	※プラン	筝に記述	載された	今後の後	と割につ	いて該当	する項目	12 FO.	を御記	入くださ	٧٧°	
いて担うべ	地域	・地域救命救急センターとしての救急医療、災害拠点病院としての										
き医療機関		災害時対応、へき地医療拠点病院としての当該地域への医療提供な										
としての役	-	どの役割はもちろんのこと、当院が香川県の西端部に位置すること										
割	_ ,	から、少なくとも現三豊観音寺二次保健医療圏の医療を守ることが										
		役割であると考える。そのためには、医療機能の分化と連携を進め、 高度急性期から在宅医療まで、患者の状態に応じた医療を提供する										
		同反志圧朔から任宅区別よく、志有の状態に応じた区別を提供する 体制を地域全体で整備することが必須である。										
	11 1103											
		(床) 高度急 急性期 慢性期 休床 計										
	現在	1	可及心 20		411	凹復翔 47	1受1生期				178	
 ②2025 年に	2025	年	20		391		47				158	
持つべき医	(考え			<u> </u>	301					-	100	
療機能ごと	地域	救命求	枚急セ:	ンター	の 10	床及び	患者急	変・領	所後管 理	里など	の院内	
の病床数	ICU 0)10 床	には今後	後も高,	度急性	期とし	て継続	売。現 ^を	行 20 万	末の中	3 病棟	
	につい	てはる	その必	要性が	ら休息	末またり	は削減	の方向]。慢性	生期で	ある地	
	域包括	テア派	病床に、	ついて	は、生	タ後の国	國の方針	計など	を見極	めて核	負討。	
		の方向										
 ③非稼働病				が見込	まれる	るため、	病院	のダウ	アンサイ	イジン:	グは不	
棟について、	可欠だ	と考え	える。									
今後の方向												
性、構想との	(+\h+\fd	(地域医療機相との敷入地の強促)										
整合性の確	\ _ ′	(地域医療構想との整合性の確保) ・高度急性期 20 床については今後も必要であると考えるが、急性期										
保 (※)		. –					'		•	- •		
		については、今後の当院の病床稼働率などから必要数を検討する。										
(※) ②の記載対		-1-11-22		<i>-</i> 1.	7	-11. X - 1.						

議論の論点		医療機関としての役割等について 医療機関の役割等										
時を開くと開かれ	200 7	テ) マ ふい)、トラスロ	rtz i		以 大] ⁽ / ⁷	X 口1 寸					
		-	ける役		. 1 1.				l			
	がん	脳卒中	疾 心 患 管	糖尿病	疾精患神	救急	災害	へ き 地	周産期	小児	在宅	
	0	\circ	0	\bigcirc		0	\circ	\circ	0			
①2025 年を 見据えた構 想区域にお い き 医 で 担 う 機 関 と し て の 役 割	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	*プラン等に記載された今後の役割について該当する項目に「〇」を御記入ください。 ・ 救急告示病院として、西部構想区域の二次救急構想等の強化推進を担う役割。 ・ 地域がん診療連携拠点病院として、質の高いがん診療を西部構想区域において実施し、診療の連携、支援の推進を担う役割。 ・ 地域料支援病院として、地域医療機関との更なる連携強化を図り、地域全体の質の向上を目指し、「地域完結型医療」を推進していく。 ・ 災害拠点病院及び香川県 DMAT 指定病院として、災害発生時の医療救護を担う役割。 ・ へき地医療支援病院として、離島である本島診療所や広島診療所に応援医師を派遣。 ・ 丸亀市においては、産科機能を持つ病院が当院と近隣の厚仁病院のみであることから、引き続き周産期医療を実施していく。										
		_	士士人	左 い	L. 114 11		VE P	L. 11- 11	/L. ===		(床)	
	IB +c	1	高度急			回復期	慢性	E别	休床	計		
(1) 000 F (#.) 7	現在 2025	圧	$\frac{16}{16}$		388 388						104	
②2025 年に 持つべき医	<u> </u>		10	'	000					2	104	
療機能ごとの病床数	・IC の急 て、	(考え方) ・ICU、HCU、一般急性期病床の機能を使い分け、西部構想区域の急性期病院として救急医療、高度先進的医療を担っていく。併せて、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院として、地域開業医等と連携のもと、開放型病床の機能も充実させ市民病院としての役割を担っていく。										
③非稼働病	(今後の方向性)											
棟について、	•											
今後の方向												
性、構想との	(地域医療構想との整合性の確保)											
整合性の確保(※)	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・											

7 10.	ク医療機関としての役割等について 										
議論の論点					医療標	幾関の後	 と割等				
	2025年	にお	ける役	割							
①2025 年を	がん	脳卒中	疾心 患血管	糖尿病	疾精患神	救急	災害	へ き 地	周産期	小 児	在宅
	0	\bigcirc	\circ	\bigcirc	\circ	0	\bigcirc		0	0	0*
見据えた構想区域に対して を として を として 割	引き約 ※在等	提供し続き 続き医	っている 医師の研	る上記 確保に は、在	の医療 努める	₹提供 体	お制を約	维持•	充実し	ていく	
		(床)									
		Ī	高度急	急性	上期	回復期	慢性	上期	休床	計	
	現在		24	28	31	0	C)	42	34	7
②2025 年に 持つべき医	2025	年	24	28	31	42	C)	0	34	7
療機能ごとの病床数	• 5	方) 度急性 急性其 可復其 慢性其	月	: 現 : 回		序 後能の病			•	検討	
③非稼働病 棟について、 今後の方の 性、構想との 整合性の 保(※)	現在(と し (地域) 地域) 特つ7	・ 慢性期 : 今後の入院患者の動向に合わせて検討 (今後の方向性) 現在休床中の1病棟(42床)を、回復期機能を持った病棟 として今後稼働予定としている。 (地域医療構想との整合性の確保) 地域医療構想では、今後は西部構想区域において回復期機能を 持った病床が不足すると推定されている為、地域に必要な医療 機能として、稼働に向けて検討を行っていく。									

(医療機関名:独立行政法人国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター) 新公立病院改革プラン、公的医療機関等2025プランを踏まえた 今後の医療機関としての役割等について

議論の論点					医療機	幾関の征	少割等						
	2025 年	にお	ける役	<u></u> 割									
	がん	脳卒中	疾血管	糖尿病	疾精患神	救急	災害	へ き 地	周産期	小 児	在宅		
①2025 年を	0	0	0		0	0	0		0	\bigcirc	0		
見据えた構	※プラン等	に記載	載された	今後の後	と割につ	いて該当	する項目	112 [0.	を御記	入くださ	٧٧°		
想区域にお	• 西部構	構想▷	区域に	おいて	成育医	医療、服	₩卒中、	心血	管系、	骨・道	重動器		
いて担うべ	への対	への対応を中心とした急性期機能の提供を維持する。											
き医療機関	・重症心	・重症心身障害児(者)に対する医療については、西部構想区域の											
としての役	みなら	みならず県内外から広く患者を受け入れておりポスト NICU への											
割	対応を	対応をしつつ、慢性期機能を維持するとともに在宅医療の支援を											
	行う。												
		・がんについては、今後、分野毎の医療機関を分化することとされ											
		た場合には、産婦人科医師の充実、また、女性専用病棟を有する											
		ことから女性特有のがん医療を中心に担っていく。											
	(考え力	(考え方) (床)											
	→□ <u> </u>	高度急 急性期 回復期 慢性期 休床 計											
	現在	_	52		350	50		215	0		367		
	2025 年		132		270	50 ********		215	0	(367		
	許可病別					•		TI.O F	₩ MIDI	OT I O			
	高度急性				•	:30.10 :30 J	•		•				
	 急性期()		•				ŕ				ビ ろ (小、		
		以目)				r,,g か あお(小				//\\\	_ / (/)		
②2025年に	 急性期()	√ √)								床 7 頁	訂(七性		
持つべき医	70(177)	-/ \ / \ /		·····································		197 1117	<i>y</i> 0 // (,)		ду оо	ν ₁ 、 , • >			
療機能ごと	回復期:	50 床		/ ,		į)							
の病床数	慢性期:2												
	精神:2	2 床(児童・	思春	胡精神	科)							
	・現在、	小児	見救命	枚急セ	ンター	一の指定	ヹを受け	けてい	るが、	成人を	と対象		
	とした	之救命	う救急 つ	センタ	一の指	旨定を得	身られ	ていな	い。地	域医療	紫構想		
	の中で	ご、樟	排想区 场	或内で	は高度	急性期	が不足	足して	いるこ	とを路	皆まえ、		
	救命求	救命救急センターの指定を目指して地域医療に貢献したい。											
	・病床利用率などの観点から規模の見直しを行う場合については、									ては、			
	急性期機能は維持するが、地域の人口や病床利用率などを踏まえ、												
	最適な	\$病月	ド規模(こつい	て検討	すする。							

	(今後の方向性)
③非稼働病	•
棟について、	
今後の方向	
性、構想との	(地域医療構想との整合性の確保)
整合性の確	•
保 (※)	

(※)③の記載対象・・・病棟が全て稼動していない病棟を有する医療機関が記入対象。

(平成 29 年度病床機能報告において報告した平成 29 年 7 月 1 日時点の医療機能を「5 休棟中、休 棟後の再開の予定なし、休棟・

7 00	の											
議論の論点	医療機関の役割等											
	2025 年における役割											
①2025 年を 見据えた構	がん	脳卒中	疾患管	糖尿病	疾精患神	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	
	0	\bigcirc	0	\bigcirc		0	0	0			0	
想区域にお	※プラン等に記載された今後の役割について該当する項目に「○」を御記入ください。											
いて担うべ き医療機関 としての役 割	・県中央部~南部の唯一の公的医療機関として、急性期から回復期、 亜急性期までの医療機能を整備する。・高度急性期病院と連携し、後方支援病院として地域医療に貢献する。・地域開業医と連携し在宅医療への支援を行う。											
	(床)											
		高度		急性	上期	回復期	慢性	上期	休床	章		
	現在				102	89)			-	191	
	2025	丰			102	89)			-	191	
②2025 年に	(考え方)											
持つべき医	・中讃地区の医療需要は2025年がピークと言われており、それまで											
療機能ごと	は、増加する疾患に対応する必要がある。											
の病床数	・疾患では、脳血管障害、誤嚥性肺炎、高齢者の骨折、慢性心不全の											
	増加が見込まれており、現在の急性期、回復期、地域包括ケア病床											
	の病床確保は必要と考えている。なお、回復期リハ病床は飽和状態											
	であり増床の必要性もある。											
	(今後	の方向	 句性)									
③ 北黎働病	•											
棟について、												
今後の方向												
性、構想との	(地域医療構想との整合性の確保)											
整合性の確	•											
保(※)												
(※) ③の記載対	. #	キキャッ	人一位	SL 1 - 7 1	、よい、いは	:4:2 /	トフロエ	= 14K HH 3	×=== = ±1.	<i>H</i> .		